もっと知りたい！
認知症 ㊸

失くしものを「盗られた」と決めつけるのは認知症？

Q ものを失くすと家族が盗んだと疑います。これも認知症の症状ですか。

指導　浦上克哉（うらかみかつや）
鳥取大学医学部
認知症予防学講座・教授、
日本認知症予防学会代表理事

A 認知症のよくある症状で「もの盗られ妄想」と呼びます。

認知症の人は、自分で失くしたものを「あなたが盗った」などと決めつけることがあります。これを「もの盗られ妄想」と呼び、アルツハイマー型の認知症によく見られる症状です。

認知症になると、自分で置いたり片づけたりしたことでも、その記憶がすっかり抜け落ちます。そのため、**身近にいる誰かが盗んだとしか思えなくなる**のです。疑われるのは、身近で親身になって介護している家族や介護施設のスタッフなどです。症状がひどくなると、近所に言いふらしたり、警察に通報する騒ぎになることもあります。

家族や介護スタッフにしてみれば、一方的に悪者にされるのは心外で、ショックから認知症の人との関係が悪化する一因にもなります。

しかし、「勝手に疑わないで」と声を荒げたり、「自分が忘れているのでは」と説明したりしても、認知症の人は納得できません。むしろ、自分の話を信じてもらえないことに不満を募らせてしまいます。

そのため、「盗まれた」等の訴えがあったときは、**まずは本人の話にきちんと耳を傾けることを心がけてください。**大切なものが見当たらず、本人は困り、不安になっています。本人の気持ちに寄り添い、「困ったね」「一緒に探しましょう」などと声をかけて、安心感を与えることが大切です。

一緒に探す場合、本人より先に見つけると「やはり犯人だから場所を知っていたのだ」と確信を持たれることもあります。さりげなく誘導して本人に気づかせ、「よかったね」と喜びを共有してあげましょう。

探して見つからなければ「後でもう一度探しましょう」と言って中断させるのも手。他のことをしていれば、ものを失くしたことを忘れ、症状が治まることもあります。

認知症でみられる被害妄想の例

認知症になると、「もの盗られ妄想」の他にも被害妄想的になることがあります。代表的な例を紹介します。

見捨てられ妄想
「家族から邪魔者扱いされている」「見捨てられる」と思い込む。

嫉妬（しっと）妄想
「パートナーが浮気している」と思い込む。証拠の描写がリアルな場合が多い。

迫害（はくがい）妄想
「誰かにいじめられている」「攻撃されている」と思い込む。介護スタッフからの虐待を訴える例も。

被害妄想の原因には、本人の不安や寂しさ、周囲への不満などが隠れています。
いずれの場合も、本人の脳内では事実と認識されているため、頭ごなしに否定しないことが大切です。